**平成28年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修の報告**

　共通機器部門　放射線管理技術班

宗岡　亜依

1. **はじめに（目的等）**

中国・四国地区国立大学法人及び高等専門学校機構の技術職員相当の職にある者に対して、職員としての資質の向上を図ることと人的交流を深めることを目的とした研修である。日常業務に関連する環境放射線測定の実習があったため本研修を受講した。

1. **期間・場所**

期間：平成28年8月24日（水）～8月26日（金）（3日間）

場所：高知大学 （高知県高知市）

1. **参加者等**

参加人数：中国・四国国立大学法人及び高等専門学校の技術職員32名

1. **研修内容**

1日目に「国立大学法人改革と技術職員の在り方」、「環境省子どもの健康と環境に関する全国調査」、「高知大学の技術職員組織について」、「学科再編による高知高専の現状報告」の話しがあった。2日目は日常業務に関連する「環境放射線測定」を選び受講した。3日目は「自然と人の相互作用：持続型社会を目指して」、「ナノ粒子のケミカル・バイオセンシングへの応用」という講義があった。

1. **まとめと感想**

国立大学法人の改革内容の説明とともに高知大学の取組みと技術職員の組織の在り方について学んだ。平成28年度から第3期中期目標・中期計画が開始されており各大学が明確な目標のもとで特色ある大学づくりを行い優秀な学生を確保することが重要であるという話しだった。高知高専の現状についても説明を受け技術職員をとりまく状況についての情報を得た。技術職員の理想像として日常業務だけでなく新分野の開発（企画）等を提案できるようなプロフェッショナルな人材が求められているという話しは印象的だった。

環境放射線測定の実習は霧箱と龍河洞での放射線測定であった。龍河洞での測定について洞窟の中は通常、ウランやトリウム系列の放射性物質が多いため放射線の量が高いはずであるのに龍河洞については出入口よりも洞内が低い結果となった。この理由として洞内は宇宙線の影響が弱まることと地質によるものであることを教わった。自然放射線の測定によって環境中の放射性物質の分布を理解させる手法は大変参考になった。

本研修によって専門的な知識を得られたことは勿論であるが情報交換会等によって他機関の技術職員との交流を深めることができた点でも良かったと感じている。